



本学新入学生の第3期・第4期 麻疹ワクチン接種動向

北海道教育大学保健管理センター

羽賀将衛、山崎朋子、
三上麻紀、小野寺千鶴子、
石田かおり、河上靖子

1. はじめに

昨年度から、中学1年時に麻疹・風疹第3期定期予防接種を受けた年代が大学に入学しているが、中学1年時から大学入学までに5年以上が経過しており、第4期定期接種の対象者と比べて¹⁾、接種動向に違いがあることが推測された。

2. 対象および方法

本学では平成21年度からすべての新入学生に対して、①過去に2回以上または最近の麻疹ワクチン接種、または②麻疹抗体検査の結果が陽性、どちらかの証明の提出を求めている。平成26年度本学新入学生1,239名および27年度本学新入学生1,230名のうち、第3期定期予防接種対象者1,043名および1,208名について、麻疹ワクチン接種または抗体検査の証明の提出状況を調査し、主に第4期接種対象者であった平成21年度～25年度新入学生と比較した。

3. 結果

乳幼児期の麻疹ワクチン接種率は、平成26年度入学生95.3%、27年度入学生94.9%で、平成21年度～25年度入学生の83.0～89.5%に比べて高かった(表1、2)。

大半が中学1年時に第3期定期接種を受けており、平成26年度入学生は20年度第3期定期接種の全国平均および北海道の接種率を上回っていたが、27年度入学生は、21年度の北海道の接種率は上回っていたものの全国平均よりも低かった^{2,3)}。

第3期定期接種の期間よりも早期に受けていた者は、26年度入学生11名(1.1%)、27年度入学生21名(1.7%)で、第4期定期接種の対象者のうちで早期に接種した者に比べて少なかった(表2、3)。

第3期定期接種の期間よりも後に接種した者は、26年度入学生94名(9.0%)、27年度入学生120名(9.9

%)で(表1)、このおよそ半数は、本学合格発表後の3月に接種していた(表4)。

最近のワクチン接種がなく抗体陽性の検査結果を提出した者は、26年度入学生10名(1.0%)、27年度入学生42名(3.5%)であった。

平成21年度～25年度新入学生と同様に、26年度および27年度入学生においても、ほぼ全員が麻疹に対して免疫を有すると推測される状況を得た。その内訳は、2回以上のワクチン接種が26年度入学生92.6%、27年度入学生91.6%、1回だが最近のワクチン接種が26年度入学生4.3%、27年度入学生3.6%、抗体検査陽性による証明は26年度入学生2.8%、27年度入学生4.2%であった(表5)。

4. 考察

2015(平成27)年3月27日、WHOにより日本は麻疹「排除」の状態にあると認定されたが、国内麻疹感染者が全くなくなったわけではなく、いわゆる輸入感染例が散発しており⁴⁾、今後も麻疹対策の継続が必要である。

本学では、上述のように平成21年度からすべての新入学生に対して、麻疹ワクチン接種等の証明の提出を求めている。第3期定期接種の対象者は、接種からすでに5年以上が経過しており、接種証明の書類を紛失している者もいたが、多くは母子手帳の記録により接種が証明された。

一昨年度までは、もし書類提出時に条件を満たしていなくても、現役生なら3月末までに第4期定期接種を受けることができ、実際に、本学の合格発表後にMRワクチンを接種した者が9%前後を数え¹⁾、中には入学手続後にワクチン接種した者もいた。昨年度から入学して来た第3期定期接種対象者は、こうした駆け込みの接種はできず、条件を満たしていない者は自費でワクチン接種を受けるしかないが、これまでに当方からの接種要請を拒否した者はなく、とくに問題は生じていない。

第3期および第4期いずれの対象者においても、大半が中学1年あるいは高校3年時に定期接種としてMRワクチンを受けているのは同様であるが、第4期の対象者では、1割前後の者が定期接種の期間よりも早期にワクチン接種を受けていたのに対して、第3期の対象者では、1.1%、1.7%とごく少数であった。定期接種よりも早期にワクチン接種を受けた時期は、多くが全国的な大流行が起こった平成19年と20年であったが、この年には第3期の対象者はまだ小学生と年少であったため、受験に備えるといったワクチン接種の動機が、第4期の対象者に比べて稀薄であったと思われる。

定期接種の期間を過ぎてからのワクチン接種については、第4期の対象者では、本学合格発表後の接種が8.4～14.2%に認められ、第3期の対象者でも、およそ半数が本学合格発表後の3月に接種してい

た。いずれの年度においても、これらの者は、もし本学以外の大学に入学することになっていれば、この時の麻疹ワクチン接種を受けないことになっていた可能性を否定できず、2回接種の機会を逸したまま今後を過ごすことになったと考えられる。

学校・大学における感染症の集団発生・流行は、児童・生徒・学生の健康を害するだけでなく、行事予定の変更や中止を余儀なくされることもあり、学校運営上も重大な問題である。入学前にワクチン接種の証明の提出を求めるという対策を多くの学校・大学が取ることにより、社会全体がワクチン接種について関心を持つようになり、麻疹だけでなく風疹などさまざまな疾病に対して免疫の保有率を上げることにつながる事が期待できる。

5. 結 語

わが国で麻疹「排除」が得られた状況においても、今後も、麻疹対策を継続することには大きな意義がある。

文 献

- 1) 羽賀将衛、山崎朋子、三上麻紀、他. 大学における麻疹対策の今後の課題. 北海道医報. 2013;1139:22-23.
- 2) 厚生労働省. 平成20年度麻疹風しん予防接種(第1期～第4期)実施状況.
- 3) 厚生労働省. 平成21年度麻疹風しん予防接種(第1期～第4期)実施状況.
- 4) 国立感染症研究所. 麻疹2015年3月現在. IASR Vol. 36, No. 4 April 2015.

表1 新入学生の麻疹ワクチン接種状況(1)

入学年度	平成26年度 (n=1043)	27年度 (n=1208)
乳幼児期の麻疹ワクチン接種		
あり	95.3 %	94.9 %
なし	4.7 %	5.1 %
最近の麻疹ワクチン接種		
①第3期定期接種以前	1.1 %	1.7 %
②第3期定期接種	88.7 %	84.4 %
③第3期定期接種以降	9.0 %	9.9 %
④なし(抗体検査結果提出)	1.0 %	3.5 %
⑤なし(未提出)	0.2 %	0.5 %

表4 第3期定期接種以降の麻疹ワクチン接種時期

平成26年度入学生		平成27年度入学生	
平成25年11月以前	8.5 %	平成26年11月以前	10.8 %
平成25年12月	4.3 %	平成26年12月	6.7 %
平成26年1月	19.1 %	平成27年1月	10.8 %
平成26年2月	5.3 %	平成27年2月	3.3 %
平成26年3月	48.9 %	平成27年3月	59.2 %
平成26年4月以降	13.8 %	平成27年4月以降	9.2 %

表2 新入学生の麻疹ワクチン接種状況(2)

入学年度	平成21年度 (n=1285)	22年度 (n=1291)	23年度 (n=1294)	24年度 (n=1285)	25年度 (n=1288)
乳幼児期の麻疹ワクチン接種					
あり	83.0 %	89.5 %	88.8 %	88.5 %	88.8 %
なし	17.0 %	10.5 %	11.2 %	11.5 %	11.2 %
最近の麻疹ワクチン接種					
①高校2年時以前	1.2 %	6.7 %	9.3 %	8.3 %	11.4 %
②高校3年時・合格発表前	80.8 %	81.6 %	80.1 %	81.0 %	79.0 %
③合格発表後	14.2 %	8.8 %	9.5 %	8.6 %	8.4 %
④なし(抗体検査結果提出)	3.8 %	2.9 %	1.1 %	1.9 %	1.1 %

表3 第3期・第4期定期接種以前に麻疹ワクチン接種を受けた年度

第3期定期接種以前の接種年度	入学年度							計(人)
	平成21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
～平成18年度	4	4	4	9	3	1	3	28
19年度	11	11	25	10	9	10	6	82
20年度		72 (高校2年)	68 (高校1年)	56 (中学3年)	39 (中学2年)		12 (小学6年)	247
21年度			23	13	6			42
22年度				18	19			37
23年度					68			68
計(人)	15	87	120	106	144	11	21	

表5 麻疹に対して免疫を有すると推測する根拠

入学年度	平成21年度 (n=1285)	22年度 (n=1291)	23年度 (n=1294)	24年度 (n=1285)	25年度 (n=1288)	26年度 (n=1043)	27年度 (n=1208)
2回以上のワクチン接種	80.7 %	86.5 %	85.7 %	85.4 %	87.5 %	92.6 %	91.6 %
1回だが最近のワクチン接種	15.0 %	8.6 %	11.4 %	9.9 %	10.5 %	4.3 %	3.6 %
抗体陽性	4.3 %	4.6 %	2.6 %	4.4 %	1.9 %	2.8 %	4.2 %
なし・不明		0.3 %	0.3 %	0.3 %	0.1 %	0.3 %	0.5 %